

06・指も、おっぱいも舐められて、貝合わせする

『05・スマホの灯りしかない夜の地下書庫で、クラウディアに誘惑される』から、そのまま続き。

主人公とクラウディア、クラウディアのスマホから出る懐中電灯の光の中、読書机の前で向かい合っている。

主人公、クラウディアに誘惑されて、あっさりくらくら来ている。
クラウディアがかわいくてしようがない。

今はまだ理性と欲望が戦っているが、理性が負けるのは時間の問題だ。

……でも、図書館つてどうなんだろう。

図書館にあるものつて板でできてるものばかりで、身体を押し付けたら痛い、あるいは冷たそうなものばかりだし。

そんなところでするのつてどうなのかなあ……。

デイデイが痛い思いをしそうな事は嫌なんだよなあ……。

この子、痛くても寒くとも、絶対我慢して言わないだろうし……と思う。

でも、あんな事されたら平静じやいられないんですけど……と悩む。

だが、やはり理性が負ける。

ちょっとだけなら……きっと、ちょっとじや済まないけど……。と思いつつ、近づく。主人公、クラウディアを机側に追い詰めるような形で近寄り、抱きしめる。

SE1 ..地下書庫の環境音

【トラック5の**SE1**と同じ音】

【頭から最後まで流す】

【トラック終わりまでごく小さな音で流す】

SE2 ..主人公がクラウディアに近づく足音

【トラック5の**SE5**と同じ音】

【0—1秒ほどまでの『3歩分』のみ流して**SE3**】

【若干響く加工をする】

SE3 ..主人公がクラウディアを抱きしめる音

【頭から流す】

〔0—3秒ほどまで流してセリフ〕

●中央 非常に近い

「抱きしめられて」

ん……
♥

〔軽く一度だけキスする〕

ちゅ
♥

〔嬉しいが、少し心配〕

いいんですか？」

〈主人公〉

「鍵かかってるし」

●中央 非常に近い

「普通に相槌を打つ」

うん

〈主人公〉

「出たくても出られないし」

●中央 非常に近い

「ちょっと甘えた声になる」

うん

〈主人公〉

「暖房まで切られちゃつたし。デイデイがこんな事言うし……」

●中央 非常に近い

「すごく甘えた声になる」

うん♥

〈主人公〉

「だから、もうちょっとだけならいいかなあつて……」

● 中央 非常に近い

【嬉しくてしようがない】

そうです♥ 私たち悪くないです。

だから、ちょっとくらいイチャイチャしたつていいんです♥』

クラウディア、内心『やつたあ！』と思う。

だがこれは、主人公の意向を無視して、言う事を聞かせた事にはならないか。

……そもそも、誘惑つてそういうものだけど。

自分よりもさらに心の弱い主人公は、こんないけないシチュエーションに耐えられるだろうか。

……耐えられない気がする。

いや、もつと正直になろう。心の弱い自分は『言葉巧みに主人公を惑わして、言う事を聞いてもらつた』という事実に耐えられる気がしない。私の弱さ、本当に悔れない。やっぱりここはあきらめよう。無理やり言う事を聞いてもらつても、意味がない。

でも、ちょっとだけ……。

● 中央 非常に近い

「[ちょつと申し訳なくなつてくる】

……ほんの少しだけでいいんです。
さつきまでと同じでいい。

もうちょっとだけ、キスしたり、おしゃべりしたり、したいです。
そしたら私、ちゃんと先生の言う事聞いて、いい子にしますから。
だから……」

クラウディア、今になつてようやく気付く。

主人公は望みの言葉をクラウディアに言わせたがる『言わせたい系』だ。

自分はそんな主人公をしようがない人だなと思いながら『言わされて』きた。

だが、自分も似たようなものだつた。

自分はいつでも、主人公に背中を押してもらいたがつてゐる。

初めて話した時も、プールに飛び込んだ時も、今も同じ。

チラチラと主人公の方を伺いながら、望みの行動を取るための許可を求めてゐる。

そんな浅ましい自分を許してほしいと願いながら『拒絶してくれたら楽なのに』とも思つて いる。

だけど主人公は、いつもそんな自分を受け入れる。

この人は本当にバカだ。愚かで、浅知恵ばかり働く、大した事のない自分にいつも優し い。

そのせいで、しなくてもいい苦労をたくさんして、払う必要のなかつた、たくさんの犠 牲を払いながら、自分と一緒にいてくれる。

主人公の顔が近づく。クラウディアは目を閉じる。

S E 4 ..クラウディアの身体が机にぶつかる音

【途中から流す】

【2~3秒ほどの『トン』1回分のみ流す】

【小さめの音量で流す】

●中央 非常に近い

【※30秒※ ほどキスする。深くて、ゆっくりした濃いキス】

ん♥ んんう……♥ ちゅ♥ ちゅくつ……れるつ……ちゅるるつ♥ ん♥ ちゅぱつ

♥ んんつ……♥ ちゅつ♥ ちゅつ♥ ちゅるつ……ちゅつ♥

【ゆっくり唇を離す】

ん……。

【すぐくドキドキしている】

先生、あの、これは……。

【言葉の途中でキスされる】

ん♥

【※30秒※ ほどキスする。また、深くて、ゆっくりした濃いキス】

んう……♥ ちゅぱつ♥ ちゅぱつ♥ ちゅるるるつ……ちゅつ♥ んん……ん
んうつ……♥ ちゅぶつ♥ ちゅるつ♥ ちゅつ♥ ちゅつ♥ ちゅつ……♥

【気持ちよくて、完全にスイッチが入る】

先生……。これ、ダメです。ほんとに、したくなっちゃう……。」

〈主人公〉

「ここ、座つて？」

クラウディア、主人公が自分の言葉を無視して、座るように促した事に驚く。さらに、口調は優しいが、有無を言わせない雰囲気にドキドキする。

これから起きる事に、ただただ期待する。

● 中央 非常に近い

「ドキドキしてうまく返事ができない」

あつ？ ここ、座るの？

【少し間をあけてから。緊張してきた】

はい、わかりました……』

SE5 .. クラウディアが書庫の机に腰掛ける音

【頭から最後まで流す】

【かなり小さめの音量で流す】

● 中央 非常に近い

「ものすごくドキドキする】

私、机の上に座ったのなんて、生まれて初めてです。

なんだか、すごく悪い事をしている感じがします……



クラウディア、かなり興奮している。

今日の主人公は、なんだかちよつと違う。

もしかしたら今日は、いつもより、ちよつと乱暴なのをされちゃうのかもしれない。
正直、ちょっと怖い。だけど、主人公ならきっと大丈夫……。

クラウディア、そうは思いつつも少し不安になる。

自分で望んだ事とは言え、こんな展開は初めてだからである。

だが、顔を上げて、心配そうな主人公の顔を見た途端、クラウディアの心は一気にほぐ
れる。

〈主人公〉

「机、冷たくない？ 平氣？」

クラウディア、思わず笑ってしまう。やっぱり主人公はいつも通りだつた。

主人公はおそらく、さつきからこれを気にしていたのだ。
だから、きつと乗り気じやなかつたのだ。

確かに、この人はもうちよつと強引さを身につけてもいいのかもしれない。
恋人にセックスに誘われてるんだから、細かい事をいちいち心配したり、確認したりし

なくともいいのかもしれない。

でも、クラウディアは主人公のそういうところが大好きだ。
不安そうに気遣われるたびに、自分は大切にされているんだと実感して、ドキドキする。
触れてくる指や、唇は、今でもたどたどしい。

だけど、その優しさや愛情で、クラウディアの快感は何倍にも増幅される。
すごく気持ちいいし、もつとしてほしいと強く思う。

今も、まだキスしかしてないのに、身体の真ん中がじゅわっと熱くなつた……。

● 中央 非常に近い

〔安心する〕

平氣です♥

むしろ暑い、くらいです。すごくドキドキしてる……。
先生こそ、寒くないですか？」

〈主人公〉

「寒い。デイデイにあつためてもらわないと凍えちゃう。
まだまだ一緒にいたいので、そうしてくれませんか？」

クラウディア、主人公に甘えられて、脳がとろけそう。

『いいんだ。まだまだ一緒にいて、いいんだ！』と思うと、嬉しくてたまらない。

●中央 非常に近い

【甘えた声で】

うん♥ 私があつためます♥』

S E 6 .. クラウディアが主人公に抱きつく音

【頭から流す】

【0~3秒ほどまで流してセリフ】

●中央 非常に近い

【うつとりと】

嬉しいな……先生の方から『まだ一緒にいたい』って言つてもらえた……』

クラウディア、椅子に座った状態でうつとりと主人公に抱きついて、足まで絡める。だがここで、主人公の方がふと冷静になる。

『先生の方から、まだ一緒にいたいって言つてもらえた』？

その言葉は聞き捨てならない。

もしクラウディアが本気で言つてるなら、認識の差異があるのはまずい。

（主人公）

「え？ 言い足りてなかつた？ ゴメンね。

でも、だいたいいつも言つてない？ むしろいつもわたしの方が必死じやない？」

クラウディア、これによつて、ちょっと我に返る。

まつたくその通りです。

『その通りだわ。事實を捻じ曲げて、甘い雰囲気に浸りたかっただけなのがバレちゃつた』
と思う。

主人公は、いつでもクラウディアと一緒にいてくれる。

どうしても無理だつた事はあるが、たとえばデートをドタキヤンされたり、来るはずの連絡がなかなか来なかつたりなど、理不尽に淋しい思いをさせられた事などは一度もない。だからいつも不安じやなかつた。自分はこんなに自信がなくて、常軌を逸するほど心が

弱い人間なのに、この恋に対してだけは、辛い、もう耐えられないと思つた事がちつともなかつたのである。

●中央 非常に近い

「『おっしゃる通りです』と思つてている】

まあ、そうかも。

【甘えた声で開き直る】

でも、いつも嬉しいんです。

【少し間をあけてから】

たつて私、もつと淋しいんだと思つてました。

先生とお付き合いできても、二人で会うのなんかきつと全然できなくて。
連絡もそんなに取れなくて。

だけど、先生のクラスの子とか、部活の子とかはいっぱい先生といられて、いつもおしゃべりして……。

私はそれが苦しくて、不安で、辛くて。

きつとどんどん病んでくんんだろうと思つてました。

【少し間をあけてから】

でも、全然違つたし。

外で堂々と会うのは無理でも、先生、いつもいっぱい考えててくれて。色々連れてつてくれるし。

連絡もたくさんしてくれる。

どうにもならなかつたの、本当に修学旅行くらいですよね？
だから、私ちつとも淋しくなかつた。

【泣きそうになる。氣持ちがたかぶる】

こんな変ですよ。

夢だと思ってたのに全然覚めないの。

私、ずっと嬉しいの。

先生が大事にしてくれるから、私、ずっと幸せなんです

〈主人公〉

「デイデイ……」

クラウディア、手を伸ばして、主人公の手を取る。それから、自分の頬に重ねる。

S E 7 .. クラウディアが主人公の手の甲を撫でる音
【頭から流す】

【0—3秒ほどまで流してフェードアウトする】
【小さめの音量で流す】

●中央 非常に近い

「ふふ。あつたかい。先生の手、好き。
いつも優しい。いつも助けてくれる……」

クラウディア、そのまま主人公の手を自分の口元に持つていって、人差し指をくわえてなめる。

●中央 非常に近い

【※30秒※】ほど人差し指を指舐めする。指の付け根から吸い上げて、ゆっくり上がりていき、指の腹（指紋のあるところ）を集中的にちゅぱちゅぱ吸う】

※静かめに。あまり激しく音を立てないようにする※

んつく……ちゅぱつ♥　じゅる……ちゅぱつ、ちゅぱつ、ちゅぱつ♥　じゅくくつ……
れろろつ♥　ちゅぱつ♥　ちゅぱつ♥　ちゅるつ、ちゅるつ、れろろつ♥

【指をくわえたまま話す。うまく話せず『ひほひひい？』みたいになる】
気持ちいい？

【吸う指を変える】

こつちも……。

【※30秒※】ほど、中指を指舐めする。指の付け根から音を立ててじゅるじゅる吸い上げて、ゆっくり上がりがつていき、指の腹（指紋のあるところ）を集中的にちゅぱちゅぱ吸う】
※静かめに。あまり激しく音を立てないようにする※

ちゅぱつ♥ ちゅつ。ちゅつ♥ じゅるるつ♥ れろつ、れろつ……ちゅぱつ♥ ちゅるるつ♥ れろ、れろ、れろ、ぺろつ♥ ちゅく、ちゅく、ちゅくつ♥ ちゅるるつ♥

【指をくわえたまま話す。先ほど同様、うまく話せない】

ふふ。先生の指、おいしいです……】

クラウディア、主人公の指をなめているうちに激しく興奮してくる。
主人公の左耳に顔を近づけて、そつとささやく。向かって右。

●左 ささやく 非常に近い

【甘くささやく】

先生。もつと舐めたい……おっぱい見せて?】

少し距離が離れる。

S E 8 .. クラウディアが主人公の服を脱がせる音

【頭から流す】

【0—15秒ほどまで流してセリフ】

主人公、ドキドキしながら、自分で服を脱ごうとする。
だが、そこでクラウディアの手が伸びてきて、脱がされる形になる。

クラウディア、主人公のブラウスのボタンを外していく。

主人公はされるがままになり、自分の服を器用に脱がしているクラウディアを見ている。
クラウディアの指先が、まるで、自分自身の服を脱いでいるかのように手慣れたようす
だから、ますます見入ってしまう。

彼女をこんな風にさせたのは自分なのだと思うと、息もできないほど、気持ちがたかぶ
る。

クラウディア、主人公のブラウスのうち、スカートの中に入っている部分の真上までボ
タンを外す。

次に、ブラウスの中が見えるように両手で開き、下着を露出させる。

それから、服の中に手を入れて、器用にホツクを外す。

最後に、主人公のブラジャーをもう一度見て『これ見た事ある。無理やり引っ張ると痛いタイプの、硬いワイヤーのやつじゃない。大丈夫』と確認してから、ぐいっとカツプを下ろす。

クラウディアの目の前に、露出した主人公の胸がある状態になる。

〔主人公〕

「ねえディディ。これ、すごい恥ずかしい……」

●中央 近い

〔楽しそうに笑う〕

ええ？ 自分はいつも私にするのに？

〔優しく、うつとりと〕

恥ずかしくないですよ。先生のおっぱい、綺麗。大好きです。

〔少し間をあけてから。主人公の、まだ勃起していない乳首を見ながら〕

ああ……でも、ここ、まだよつと寝てるかな。

〔手のひらで胸を触り、指先で乳首をいじりながら話す〕

でも、こうしたらすぐおつきしますよね？

【※マークまでゅつくりと。ちよつとだけ意地悪に】

ほら。こうやつて軽くひつぱりながら、先っぽのきらきらしたところを指で撫でるの。気持ちいいですよね？

私、いつも先生にいたずらされるから、自分で触るのも上手になっちゃったんです。
ふふ……♥「※

再び距離が近づく。

●やや右寄り 下 近い

「【※30秒※ ほど、右の乳首を舐める。ちゅぱちゅぱ、優しく舐める】

※静かめに。あまり激しく音を立てないようにする※

んふつ……くちゅつ♥ れろつ、ぴちゃつ♥ ペろつ、れろつ、ちゅぱつ♥ ちゅくつ
……ちゅくつ、ちゅるつ♥ ペろつ、ちゅぶつ♥ ちゅぶぶ……ちゅるつ♥

【一度口を離す】

両方しましようね。

●やや左寄り 下 近い

【※30秒※ ほど、左の乳首を舐める。ちゅぱちゅぱ、優しく舐める】

※静かめに。あまり激しく音を立てないようにする※

S E 8 ..クラウディアが自分で自分の股間をいじる音

【頭から最後まで流す】

【規定の位置まで繰り返して流す】

【小さめの音量で流す】

んんっ……ちゅつ♥ ちゅつ♥ くちゅつ♥ ぴちやつ、ぴちやつ、れろつ♥ ちゅる、
ちゅる……くちゅつ♥ ちゅぱつ♥ ちゅふふつ……ちゅつ♥「

※ここでS E 8がストップ

クラウディア、主人公の乳首を吸いながら、自分の股間に手を伸ばす。
そのままタイツと下着の中に右手を入れ、ぐつしより濡れた自分のクリトリスを愛撫す

る。

それでも別に、我慢ができなくなつた訳じやない。

ただとてもむずむずして、そういう気分になつただけだ。

そもそも、正直、この座り方じやタイプが邪魔で、全然思うところに手が届かない。別に気持ちよくない。

それでもこうする理由がある。

だって、自分がこんな恥ずかしい姿を見せたら、主人公ももつと興奮してくれて、もつと色々してくれるかも知れないし……。

でも、主人公に気づいてもらう事を前提に、彼女の目の前で自慰をする自分は、すぐ卑しい気がする。

というか、それは今に始まつた事じやない。自分はいつも卑しいのだ。

素直な行動というものが全然ない。

自分は、いつも主人公の気を引きたい。

少しでも構つてほしいし、少しでも良く思われたい。

でも、それを正直に言えないから、いつも計算している。

主人公に注目されそうな行動を、必死に考えて、取つている。

でも、それくらい、みつともないくらい主人公を求めている事を知つてほしい。こんな自分を許して、必死な姿を『かわいい』と言つてほしい。

そうしたら、自分はきっと……。

そんな事を考えていると、主人公がクラウディアの行為に気づく。

胸を吸われながら目を閉じていたらしいが、音で気が付いたらしい。

主人公は一瞬『なぜそんな事を?』という表情になるが、すぐに目を見開いて、クラウディアの股間を凝視する。

鈍感な主人公でも、自分がこうしている意図はわかつたのだろう。

興奮した目つきで見下ろされ、クラウディアはぞくぞくする。

（主人公）

「やらしい……♥　自分はいつもわたしにするなつて言うのに」

●中央 近い

〔乳首から唇を離す。指摘されて、むしろ嬉しそうにする〕

えへ……」

〈主人公〉

「自分で触るのって禁止なんじやなかつた?
……もしかして、わたしに、見てほしかつたの?」

●中央 近い

「【とても興奮している】

……うん。触りました。

私、先生にはダメって言う癖に、自分は触っちゃいました。
先生に見てほしかつたの……」

〈主人公〉

「だめだよ。自分で触つてちや。スカートの中見せて?」

●中央 近い

「【ものすごく興奮している】

はい……♥ 先生、おしおきして下さい ♥

私のスカートの中、どうなつてるか、見てほしいです ♥

少し距離が離れる。

S E 9 .. 主人公がクラウディアを机にそっと押し倒す音

【頭から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

●中央

【押し倒されて少し驚く】

あ……』

クラウディア、押し倒されて机の上にあおむけに寝転がり、両足を開かされる。両足のあいだに、主人公の身体がある形になる。

当然、スカートはめくれ上がりついて、下着が見えそうだ。

こんな事はされた事がない。机に乗ったのが生まれて初めてなんだから当たり前だ。机は確かに冷たいが、今はそれどころじゃない。

〈主人公〉

「タツイッ破れちゃうから、脱がすね」

●中央

【ドキドキして声が震える】

はい……

そこで、主人公の視線が、ふと、クラウディアのつま先に移る。

（主人公）

「ああ……」

クラウディア、主人公が自分の靴を邪魔そうに見るので、ぞくぞくする。
見た事のない表情だ、と思う。

それでも主人公は、きっと丁寧に靴を脱がして、そつと床に置くのだろうと思つた。
でも、違つた。主人公はクラウディアの足首を軽く持ち上げると、ぱちん、と、足首に
巻かれたストラップを外す。

そのまま、靴は脱げ、地下書庫の床に落ちる。

思つた以上に大きな音がして、クラウディアは恥ずかしくなる。

SE11 .. 主人公がクラウディアの靴を脱がす音

【頭から最後まで流す】

【かなり小さめの音量で流す】

SE12 .. クラウディアの靴が、床に落ちる音

【頭から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

【少し響く加工をする】

●中央

「**少し驚く**」

あ、靴

（主人公）

「あとでね」

クラウディア、主人公は靴を捨いに、一度身体を離すのだろうと思つた。
だが、そうはならなかつた。

主人公の手は、そのまま下着ごと、クラウディアのタイツを下ろしていく。
主人公は今、靴の事なんて忘れてしまつてゐる。

そのくらいクラウディアの事しか見ていないのだ。
それを実感して、クラウディアはたまらなくドキドキする。

S E 1 3 ..主人公がクラウディアの下着とタイツを脱がせる音
【頭から最後まで流す】

●中央

「呼吸が荒くなる。すぐ恥ずかしい」

はあ、はあ……。

【照れ笑いする】

タイツごと、脱がされちやつた。

恥ずかしい……そんなに近くで見ないで下さい……。

【太ももにキスされてびくつとする】

んっ♥

【そのままつま先に向かって、左足をなめられる】

ああっ……足、舐めないで。恥ずかしいです……。あつ♥

【つま先にキスされる】

んんつ♥』

〈主人公〉

「中、すごいね。えっちな匂いする」

●中央 近い

「〔※マークまで、ものすごく興奮している〕

やだあ……つ♥ そう、ですよ。

〔興奮しすぎて、高い、さえずるような声になる〕

さつきから、熱くて。タイツどころか、スカートまで汚れちゃいました……
どうしよう。こんな制服じや学校歩けないです。寮にも戻れない……』

〈主人公〉

「自分で触ったから、ここ、ぐちゅぐちゅになつてるもんね。
ぱんつにも、タイツにも染みてたよ。

あれは、もう履けないね。帰る時も、今の格好で戻る?』

クラウディア、主人公に言葉攻めのような事をされて、ドキドキする。でも、主人公の事だから、そんな意図は全然ないのかも知れない。

普通に『あんな状態の下着とタイツは履けないだろう』と指摘しているだけかも知れない。

どつちにしろ、クラウディアはもうダメだ。

一刻も早く主人公にめちゃくちゃにしてほしくてたまらない。

●中央 近い

「もお。先生だつて……絶対、濡れてる癖につ
絶対、私と同じ風になつてる癖につ♥

【少しだけ間をあけてから。甘つたるく誘う】

先生。私のぐちゅぐちゅのこと、先生のこと、くつつけるのしょ?
こうやつて、足、持つていますから。

〔懇願する〕

くつつけて、くちゅくちゅして、一緒に気持ちいいのしましょ?』※

〈主人公〉

「うん……♥」

S E 14 .. 主人公が、自分の下着とストッキングを脱ぐ音

【頭から流す】

【0—8秒ほどまで流してセリフ】

●中央 近い

【ものすごく興奮している】

あ……すご♥ 先生もやっぱり、ものすごく興奮してるじゃありませんか。
全然人の事言えない。やらしい♥

【甘くかされた声で】

先生、来て……一緒に悪い事しましょう♥

クラウディア、もう何も考えられない。

自分はいつも冷静で、いつでも主人公の気を引くために、ベストの選択について考えて
いるはずだった。

でも今はできない。自分のしたいようにしかできない。

SE15 .. 机が揺れる音

【頭から最後まで流す】

【**SE16**と一緒に流す】

【小さめの音量で流す】

SE16 .. 主人公が、自分の性器と、クラウディアの性器をこすりつける音

【頭から最後まで流す】

【**SE15**と一緒に流す】

【途中から、速度を上げて流す】

【後半からはさらに一段階速度を上げて流す】

【規定のポイントまで繰り返して流す】

【小さめの音量で流す】

●中央 近い

【性器が接触して気持ちいい】

ん……♥

【ゆっくりと】

はあ……あ♥ きもちいとこくついた……♥

【照れ笑いする】

えへ。いつぱいしようね♥

【主人公がこすりつけ始めたので感じる】

んつ、あつ……♥ あつ……ああ……♥

【すごく恥ずかしい。思った以上に大きな音がして興奮する】

ああ……♥ すごいやらしい音する……。

【足を高くあげられて恥ずかしい】

ああ……あまり足、上げないで。恥ずかしいです……。

【じわっと気持ちいい】

ん……あ♥ ああ……♥

【すごく気持ちいところにあたる】

ああつ……♥ すごいつ……♥

ん……♥ あ♥ 先生のと♥ 私の♥ 深く重なってるの♥ わかります♥

んつ♥ ん♥ ああ……つ、あ♥

【うつとりと】

気持ちいい……気持ちいいですね♥

はあ……はあ……ああ……♥

ねえっ、先生♥

この学校でつ♥ こんな事したの♥ きっと私たちだけですね……♥
でも私。いけない事してるのに、すごく幸せです♥
好きです。嬉しい……先生と一緒にきもちいの嬉しい……♥
【唇をふさがれる】

ん♥

【※30秒※ ほど、甘々にキスする。夢中で求め合っているイメージ】

ん♥ ふ♥ んう♥ ちゅつ♥ ちゅつ♥ んんつ♥ くちゅつ……ちゅぶつ♥
ちゅつ♥ ちゅつ♥ ちゅつ♥ れろろ……ちゅつ♥

先生……好き♥

【『もつと乱暴にしても平気なので、して下さい』という意味で言っている】

もつと、して、下さい♥

もつときゅつと♥ 身体のくつつけられるところ、全部くつつけたいです♥
先生、好き。大好きです♥

※ここからSE16の速度が少し早くなる

【※30秒※ ほど、甘々にキスする。夢中で求め合っているイメージ】

んんう♥ ちゅつ♥ ちゅくつ♥ ちゅぶつ、ちゅつ♥ ちゅくくつ……ちゅつ♥ れ
ろつ、ちゅつ♥ ちゅつ♥ ちゅぶつ♥ ん……ちゅつ♥
【ゆつくり。すごく気持ちいところにあたる】

あつ♥ あ♥ ああ♥ あああ♥』

△主人公

「ディイディ……♥ わたし、そろそろつ……」

●中央 近い

「【甘くかされた声で】

せんせ……イキそ？ 私も……
いいよ♥ このまま……♥ あ♥

※ここからSE16の速度がさらに少し早くなる

【※15秒※ ほど、甘々に喘ぐ】

あ♥ ああ……あつ♥ ん♥ ああ……ん♥ あ♥ あ♥ ああ♥ ああ……うつ♥
【クリトリスでいく】

ああああつ……♥』

※ここでSE16がフェードアウトする

SE17 .. 主人公とクラウディアが抱き合う音

【頭から流す】

【0—7秒ほどまで流してフェードアウトする】

●中央

【※7秒※ ほどかけて呼吸を整える】

はあ、はあ、はあ、はあ……♥

先生……♥

うん♥ ぎゅつとして……♥』

〈主人公〉

「平氣……？ 身体、痛くない？」

●中央

「まだ息が苦しいが、すごく嬉しい」

大丈夫です♥ すごく気持ちよかつた……。

【少し間をあけてから。うつとりと】

大好きです……内緒の思い出……また、増えちゃいましたね♥

【軽く一回だけキスする】

ちゅ♥」

このままフェードアウトして終了。